

グリーンパーク相談所だより 10号

2006年(平成18年)5月20日発行

北九州市の花 つつじ



ツツジとサツキ

サツキはツツジの一種ですが、ツツジという名の単一なものはありません。ツツジという名は、ツツジ科のシャクナゲ亜属を除く多くの種類の総称で、正確にはツツジ類というべきでしょう。

日本はツツジが豊富な国で、野生種だけでも四十種近くあります。ツツジは三月下旬から咲き始め、そのシーズンの終わりをサツキが飾ります。

一般にツツジ類は、新芽の展開前と同時に開花します。サツキは新芽が伸び始めた後に咲くので開花が遅いのです。

サツキとは

ツツジの一種で、関東以西の川岸の岩山などに自生し、古くから栽培されています。名前の由来は皇月に咲くつじという意味から、「サツキツツジ」と呼ばれ、略して「サツキ」になりました。また、ツツジの由来は連なつて咲くという意味の「つづき咲き」という説や、花が筒状なので「筒咲き」が転じたという説があります。

磯の上に生ふる馬酔木を
手折らめど
見べき君がありとは
言わなくに

大伯皇女

水辺のほとりに生えている馬酔木を折ろうと思うけど、折って帰って見せるはずのあなたが生きているとは誰も言つてはくれないのに。

万葉集より

馬酔木(アセビ) ツツジ科

アセビの花が垂れ下がる様子は、大伯皇女の悲しみの涙にも見える。

大伯のひめみこ。天武天皇の子。弟の天津皇子を移葬したとき詠んだ歌。
幼くして実母(大田皇女:天智天皇の長女)を亡くした姉弟は深いきずなで結ばれていたようである。この歌で悲しみをあたらしめている。

釣鐘型の白いわいらしい花をつけます。花は下向きに咲き垂れて可憐な感じがします。姿とはつらはらに有毒植物で、牛馬がアセビの茎葉を食べると中毒して酔ったようになるといわれます。そのため「馬酔木」といわれるようになったとも言われます。

植物の力 ~ ツツジ科の植物 アセビ ~

しかし、実際には牛馬はこれを食べません。奈良公園にアセビが多いのは鹿が食べないからということなのです。



一の薬効は各種昆虫にもみられます。葉の粉末や煎汁を農薬として古くから用いられてきました。現在は使用しません。

花びらの不思議???

花が実になり子孫を残していくためには、虫の助けを借りるものが数多くあります。そのため花は、虫を引きつけようと様々な工夫を凝らしています。

例えば、虫に目立つ白・黄・赤をしたもの、強い香りを出すもの、花粉を運んでもらいやすいような形をしたものなど花によって仕組みも様々です。

その中の一つツツジは、五枚の花びらのうちの一枚だけ濃い斑点があり、この根元だけに蜜があります。虫はこれを目印によってきます。

ツツジの見頃の季節、顔を近づけてよく観察してみてください。不思議ですね。

